

人文科学におけるオープンサイエンスの課題

世界の科学分野においては、論文の根拠となるデータをインターネット上で公開・共有化するオープンデータ、オープンサイエンスの動きが急速に始まっています。データの捏造問題が後を絶たない中、第三者による検証がより容易に可能となるよう、データの共有化を求める動きが進むことは、必然的なものといえるでしょう。また、情報公開の流れのなかで、行政側が主導して、研究機関を含む公的機関が保有するさまざまな情報のオープンサイエンス化を推進する動きもあります。他方、人文科学の分野においては、この問題に対する反応はあまり迅速ではないように思われます。

本年度の資源共有化研究会では、国の施策のなかでのオープンサイエンスをめぐる最新の状況についての認識を深めるとともに、人文科学の分野でオープンサイエンス化を進めるうえで、どのようなことが課題となるのか、また研究の進展や研究成果の社会化のためにはどのようなオープン化が必要であり、望ましいのか、といった問題について意見をかわす場としたいと思います。

○ 日 時 平成29年 2月3日（金）13時30分～17時

○ 開 場 愛知工業大学 本山キャンパス 3F 大学院講義室1（13:00 開場）

○ プログラム

13:30～13:35 問題提起

人間文化研究機構理事 榎原雅治

13:35～14:20 「オープンサイエンスが生まれた背景と最近の政策の動き」

文部科学省科学技術・学術政策研究所 林 和弘

14:20～14:50 質疑

15:00～15:25 「歴史資料のオープンデータ化に関する現在と未来

— 歴博の総合資料学の取り組みを通じて —

国立歴史民俗博物館研究部 後藤 真

15:25～15:50 「歴史的典籍NW事業におけるオープンデータ

— その戦略と課題 —

国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター 山本 和明

15:50～16:15 「言語研究と「オープン」データ」

国立国語研究所コーパス開発センター 前川 喜久雄

16:15～17:00 総合討論

○ 主 催 大学共同利用機関法人人間文化研究機構

総合情報発信センター 高度連携情報技術委員会

○ 連絡先 人間文化研究機構事務局センター事務室情報発信センター係

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル2階

(TEL) 03-6402-9234 (FAX) 03-6402-9240 (Mail) cip-office@nihu.jp